

國見古事記

席田

九村

靈龜元年七月尾張國人外從八位上席田君

方縣五十村

厚見八村

山

事記

席田

邇近及新羅人七年十四家貢于美濃國始建席田郡

方縣五十村

厚見八村

山

縣五十村

武儀

百四十五村

日本紀身延喜式作武義和名抄作武藝古事記卒宜

郡上百六十四村

上齊衡

二年置詳上文

加茂

百二十一村

賀茂延喜式等作惠奈

惠那八十村

土岐

五十六村

武紀作穢杵郡天

可兒五十村

各務

三十一村

羽栗

六十村

中島三十村

海西二十八村

式等皆不載蓋中世所置

二年置詳上文

加茂

百二十一村

賀茂延喜式等作惠奈

惠那八十村

土岐五十六村

武紀作穢杵郡天

可兒五十村

各務

三十一村

羽栗六十村

中島三十村

海西二十八村

式等皆不載蓋中世所置

〔日本地誌提要〕美濃沿革 古へ國府ヲ不破郡ニ置、村是ナリ鎌府ノ時、梶原景時大内惟義ヲシテ交替シテ守護タラシム、正治ノ初、土岐光衡ヲ守護トシ、子孫職ヲ襲グ、七世ノ孫賴康、足利尊氏及義詮ニ歴事シ、尾張伊勢ノ守護ヲ兼ネ、州守ニ任ジ、革手城ニ居ル、厚見孫康政罪ヲ將軍義滿ニ獲テ出亡ス、賴康ノ姪賴益之ニ代テ守護トナリ、五世ニシテ賴藝ヨリハリニ至リ、治ヲ大桑城ニ徙ス、天文十一年其臣齋藤秀龍賴藝ヲ逐ヒ、本州ヲ奪ヒ自立シテ守護ト稱シ、岐阜稻葉山ニ居ル、孫龍興ニ至リ、西濃ノ著族不破、安藤、氏家、稻葉氏等、皆志ヲ織田信長ニ通ズ、永祿七年、信長遂ニ大舉シテ來リ、伐龍興越前ニ奔リ、本州信長ニ歸ス、九月、信長清洲ヨリ岐阜ニ徒ル、天正四年、近江ノ安土ニ徙リ、子信忠ヲシテ岐阜ニ鎮セシム、十年、信長弑セラレ信忠自盡シ、信忠ノ弟信孝本州ヲ管シ岐阜ニ居ル、兄信雄豊臣秀吉ニ黨シテ信孝ヲ誘殺ス、秀吉池田信輝ヲシテ大垣ニ鎮セシメ、金山城ヲ森長一二賜ヒ、州事ヲ監セシム、信輝死後、嗣輝政岐阜ニ徒ル、十八年、秀吉輝政ヲ三河ニ徙シ、信忠ノ子秀信ヲシテ岐阜ニ鎮セシメ、本州ヲ領ス、關原ノ役西軍ニ屬シ、城陥リ出亡ニ終ル後高野山、德川氏岐阜ヲ廢シ、慶長六年、石川康通ヲ大垣ニ封ズ、後戸田氏鐵カ子之ニ代リ、其曾孫氏定、其弟氏成ニ新田壹万ヲ與ヘテ支封トナス、慶長ノ末、東南境餘石萬ヲ以テ徳川義直ニ賜ヒ、其相竹腰正信ヲ今尾ニ封ズ、其他封ヲ受ル者、加納奥平信昌、後高須徳永壽昌、後郡上、遠藤慶隆後岩村松平家乘、後苗木遠山友政、凡テ七藩、後又高富本莊芳ヲ加ヘテ八藩トナス、王政革新、今尾ノ竹腰正舊ヲ直ニ藩列ニ加フ、後皆改テ縣トシ、笠松縣ヲ加ヘ凡テ十縣トス、既ニシテ悉